



磯辺行久《Work 64-51》1964年



三木富雄《耳》1965年

高松市美術館コレクションによる

ポップの時代展

2002年6月14日(金) - 6月30日(日)

●開館時間

火～金曜日(9:30～19:00) / 土、日曜日(9:30～17:00)

入室はいずれも閉館30分前まで / 月曜日休館

●入場料

一般 600円 高大生 400円 小中生 200円
(480円) (320円) (160円)

●()内は前売りおよび団体20名様以上の料金

●65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要)・身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料

●土曜日における諸学校の児童・生徒は入場無料

Takamatsu City Museum of Art

高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel. 087-823-1711

主催 / 高松市美術館



菊畑茂久馬《ルーレット》1963年



中西夏之《コンパクト オブジェ》1968年



工藤哲巳《あなたの肖像》1963年
(撮影 高橋章)

ポップ・アートは、1950年代後半のイギリスで生まれたのち、60年代のアメリカで一挙に開花しました。大量消費社会、マスメディア社会が到来した60年代のアメリカにおいて、ポップ・アーティストたちは日常の中に氾濫する既成の大衆的なイメージを題材として取り上げ、新しい美学を提示しました。

日本でもアメリカの影響を受け、1960年代半ばにポップ・アートが台頭してきます。誰でも自由に出品することのできる読売アンデパンダン展を舞台に先鋭的な活躍を続けていた「反芸術」の作家たちを中心に、さまざまな作家たちがこの新しい傾向に共感し、活気あふれる芸術活動を展開しました。

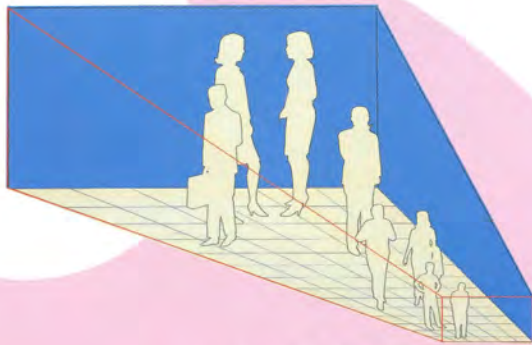
本展では、高松市美術館のコレクションの中から、篠原有司男、荒川修作、吉村益信、高松次郎、中西夏之、磯辺行久、菊畑茂久馬、工藤哲巳、立石大河亞、中村宏ら日本のポップ・アートにおける中心的な作家の作品をはじめ、ポップ・アートの系譜に連なる粟津潔、横尾忠則らのグラフィック・デザインや上田薫、中川直人らのスーパー・リアリズムの作品など約100点により、日本におけるポップ・アートの流れを検証します。



篠原有司男《女の祭り》1969年



田中信太郎《ハートのモビール》1974年
(撮影 桜井ただひさ)



高松次郎《遠近法の人物 No.192》1967年



横尾忠則《電話》1965年



立石大河亞《立石統一のような》1964年

● ギャラリートーク

当館学芸員によるギャラリートーク

6月15日(土) 午後2時より 2階展示室にて
美術館ボランティアcivi(シヴィ)によるギャラリートーク
会期中の日曜日 [6月16日(日)・23日(日)・30日(日)]
午前11時～/午後2時～ 1日2回 2階展示場にて

● 常設展のお知らせ

第2期常設展 6月14日(金)～8月18日(日)
展示室1:アメリカとイギリスのポップ・アート
展示室2:磯井如眞の世界
*特別展のチケットでご覧いただけます。

● 次回催し物のお知らせ

韓国大衆文化展 8月2日(金)～9月1日(日)



交通のご案内

JR四国—JR高松駅下車、南へ徒歩15分
琴平電鉄—瓦町駅・片原町駅下車、徒歩10分
バス路線—組屋町バス停下車、徒歩3分
駐車場—美術館地下に公営駐車場
(有料、乗用車144台収容)